

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	上藤一郎	
講義コード	2372017010		講義名	経済統計学	
開講曜日	火曜日	火3・4時限	専門科目		
授業回数	23回	休講回数	4回	補講回数	0回
				受講登録者数	44人
<p>成績評価に際し注意した事項 評価の公平性：シラバスで定めた算式に従い，出席点，2回の単元課題レポート，期末テスト，計算演習点を総合して成績評価</p>					
<p>報告内容 授業評価アンケートの集計結果を見て，事前に上藤が予想していた結果と大よそ同じ結果をデータから読み取ることができた。これは，担当者である上藤が授業における良い点，悪い点のある程度自覚していることによるが，それ故，以下示された問題点については，授業期間中にも改善を試みたが今後の更なる改善に取り組みたいと考えている。</p> <p>問題点1：板書について 字が小さくて読みにくい，消すのが早いなどの問題点が指摘されている。これは早い段階から上藤も認めている所であるが，大教室での授業であること，数式を展開させて講義するため，どうしても板書の記述量が多くならざるを得ないという事情もあってなかなか良い改善方法が見つからなかった。当面の対策として，板書の代わりとなるレジメを，毎回の授業分について上藤の個人HPからPDFファイルでダウンロードできるようにした。これにより板書の問題が少し改善されたと思うが，自由解答欄で「ただレジメを配布しただけ」，「パソコンがない学生には少々きつい」などの意見もあったことは明記しておきたい。レジ作成とHP上での処理にはかなりの時間を割いたが，効率性という点から，このような方法が望ましいのか，改めて今後検討してみたい。</p> <p>問題点2：授業の進み方・難易度について 授業の進み方が早く，難易度の妥当性について問題点が指摘されていた。これは学生の反応を見ながら授業を進めていくという問題と深く関連する。これについても，ある程度授業中にその問題点を認識しながら，適切な改善方法を見つけることができなかった。今後とも，問題点の改善に取り組むべく更なる努力を続けていきたい。</p>					